

ミステリ読書案内

2025. 1. 13 発行元

第628号 伊藤 剛

<https://mystery-dokuan.com>

松原秀行「ベスト表」(再掲)

講談社の児童書・青い鳥文庫『パスワード・シリーズ』で知られた松原秀行の『ベスト表』を取り上げる。前に一度「ベスト10」を紹介したことがあるが、全体を通しての『ベスト表』は今回が初めてとなる。

「電子探偵団」シリーズの作者

松原秀行の作品のほとんどは講談社の「青い鳥文庫」から出ている。ということで、ミステリとは言っても「児童書」の範囲で楽しんでもらえれば良い。パズル、クイズがポンポン飛び出し、ダジャレ連発の場面もあり、子どもたちを楽しませてくれる工夫が満載されている。

以前はどこかの学校の図書館にも並んでいたが、今は本が傷んでしまって姿が消えつつあるように感じ

る。第一作の『パスワードはひ・み・つ』が出たのが1995年なのでもう30年近くになる。「パソコン通信」を目玉にしたスタート。でも、SNSの急激な進歩で途中で内容が変えていくしかなかった。何作かは世の中の実情に合わせて「改訂版」が出されている。

最近は新作を目にすることはなく残念に感じている。図書館では閉架書庫に大量に保管されているはずなので、興味のある方は是非読んでみてほしい。

「パスワードとホームズ4世」

1998年の作。シリーズ第五作に当たる。パソコン通信電子探偵団のメンバーは小学六年生のマコト、飛鳥、ダイ、みずき。途中からまどかが加わる。そしてまとめ役の団長はネロ(別名レイ)。今回は、イギリス・ロンドンからの灰色の目をした客人が登場する。名をアイザック・エイチ? よくよく聞いてみるとあのシャーロック・ホームズの……ということらしい。

マコトのお父さんはケーキ屋さん。頼まれてケーキを配達に行くところでお会いするのがアイザック。彼は最初から鋭い推理を見せてくれるのだった。マコトはパズルで対抗しようとするのだが、アッサリかわされてしまう。次に会ったのが風浜駅近くのビルの一階にあるレイの経営している喫茶店「ベーカリー街」でのこと。集まった探偵団の前にアイザックがやってくる。そこで新しく開局するテレビ局の番組「パズルバトル」に参加する流れに話が進んでいく。果たしてその活躍は…。

「パスワード怪盗ダルジュロス伝」

2006年の作。シリーズ第十九冊目。電子探偵団のボス・ネロの本名は野沢レイ。本書はそのレイの名探偵ぶりを描いた外伝風の内容。電子探偵団は今回はお休み。レイを主人公とする本は本書以外にも『ビートルズ・サマー』など何冊かある。本書ではレイはアイザックの紹介でパリのアルヌール家を訪ねる。同行するのは紅茶博士の名を持つ田中一茶。

空港に迎えに出たアルヌール家の運転手は何か気に取られてしまっている様子。玄関に出てきた執事はレイと一茶に今夜は予定を変更してホテルに泊まってほしいと言いつつ。どうやら異常事態が発生したらしい。次に登場した当家の次男コランに話を聞くと怪盗ダルジュロスから「明日、代々伝わる秘宝をいただきに参上する」との予告状が届いたのだという。レイは名探偵であることを話し、助力を申し出る…。

《 松原秀行『ベスト表』 》

1. パスワードはひ・み・つ
2. パスワード電子猫事件
3. 続パスワードとホームズ4世
4. パスワードで恋をして
5. パスワード忍び里
6. パスワード怪盗ダルジュロス伝
7. パスワード・ダイヤモンド作戦
8. パスワードとホームズ4世
9. パスワード謎旅行
10. パスワードに気をつけて
11. パスワード春夏秋冬
12. パスワードVS紅カモメ
13. パスワード魔法都市
14. パスワード幽霊ツアー
15. パスワード地下鉄ゲーム
16. パスワード悪魔の石
17. パスワード菩薩崎決戦
18. パスワード悪の華
19. パスワード終末大予言
20. パスワード風浜クエスト
21. パスワード ドードー島の罠
22. パスワード渦巻き少女
23. パスワード龍伝説
24. パスワード暗号バトル
25. パスワード猫耳探偵まどか
26. パスワード東京パズルデート
27. パスワード・レイの帰還
28. パスワード四百年パズル
29. パスワードまぼろしの水
30. ビートルズ・サマー
31. パスワードはじめての事件
32. パスワードUMA騒動
33. 怪盗は8日にあられる
34. 鉄研ミステリー事件簿II
35. ミッシング・ガールズ
36. パスワードのおくりもの
37. 鉄研ミステリー事件簿I
38. 探偵なら30分前に脱出せよ。
39. パスワードパズル戦国時代
40. 山頭火ウォーズ
41. パスワード「謎」ブック
42. パスワード学校の怪談
43. 銀河寮ミステリー合宿
44. オレンジシティに風ななつ

ほとんどの本が講談社の「青い鳥文庫」から出ている。